

なやみごと

「恵さん、何かあったのかな？」

「はじまりは、そんなSNSへの投稿だった。投稿したのは、新潟市内の大学に通う大学院生の関口大輔。大輔は、実験のために研究室に泊まりこむことが多く、その度に大学近くの、この海野恵が営む弁当屋「恵キッチン」に通っていた。お目当ては、安くてボリューム満点のから揚げ弁当だ。常連客の噂によると、先代の店主である旦那さんの約束を守って開店以来30年間値段が変わっていないのに、年々量が増え続けているという、恵キッチンの名物メニューだ。その名物メニューをいつものように店先でスマホをいじりながら待っていると、から揚げを揚げながら、ぼうっとと壁の一点を見つめている恵の姿が目に入った。時間にしてほんの数分の出来事だったのだが、いつもは70歳手前という年齢を感じさせないほどテキパキと、調理に接客にと、人一倍動き回っては、人一倍楽しそうに、店を一人で切り盛りしているだけに、心ここにあらずといった姿が妙に気になった。その違和感

は、研究室でから揚げ弁当を平らげた後も消えることはなく、ひとりで悩んでいるよりかは…と、恵キッチンの常連客で作られているSNSのグループに投稿してみることにしたのだ。「気のせいだろ」「あの恵さんがぼうっとするわけないじゃん」「たまたま疲れてたんじゃない？」常連客たちからは一様にそんな反応が返ってきたため、その日は大輔も「気のせいだったのかな」とスマホを閉じた。

「何か思いつめているようでした」
そのコメントが投稿されたのは、二日後のことだった。書き込んだのは、店の近所に住む安田絵里子。シングルマザーとして家事に仕事に追われる毎日を過ごしている絵里子は、仕事が遅くなった日など、よく恵キッチンを利用して、子育ての相談にもよく乗ってもらっているのだという。ところがこの日は、いつものように話しかけても、恵は空返事を繰り返すだけで、会話が続かなかったのだというのだ。しかも、「私も悩んでいるのよね」とポソッとこぼしたらしい。

「あれは、相当悩んでるよ。もしかして、お店しめちゃうのかな」
気になって早速行ってみたんだけど…翌日、そんな言葉で始まるコメントを投稿したのは、サラリーマンの太田雄二だった。薬剤メーカーの営業マンとして県内を走り回る雄二は、営業車の中で手早く取ることができ、それでいて美味しくて栄養満点の恵の弁当の大ファンで、近くを通るたびに必ず立ち寄っているのだという。そんな雄二が、この日、店を訪れると、やはり恵に元気がなく、ふと周囲を見渡してみると、昼どきにも関わらずいつになく客の姿も少なかったというのだ。

「お店？ やめるわけじゃないでしょ。私もまだまだ元気なんだから。失礼しちゃうわ」
「え、だって、悩んでるって…」
「あ、確かに、ちよっと悩んでたのよね。最近、野菜とかいろいろ高くなってきちゃって…」
「もしかして、悩んでる？」
「から揚げ弁当、350円だと、正直きついなって」「そっちなよ！」
最後は、その場に居合わせた常連たちが思わず口を揃えていた。そして、その様子を、行列の客たちが不思議そうに見つめていた。

その日の常連客グループのSNSは、荒れに荒れた。「やっぱり、最近はこのスタイルのお弁当屋さんって流行らないのかな？」「いや、それ以前に、あの値段でしょ。安すぎるし」「それに量も多い」「オレやだよ。やめて欲しくないよ」「私も」「僕らにできる事ないかな？」「オレ、明日、大学のやつに宣伝するよ」「私も会社の人に宣伝

する」「ねえねえ、チラシ作ってみたんだけど」「いいじゃん」「よっしゃ、会社で配るよ」

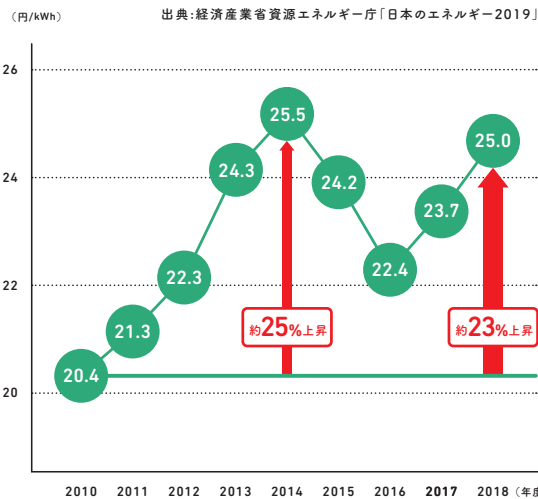
翌日、昼どき。恵キッチンに駆けつけた大輔が目にしたのは、見たことのないような大行列と、その先で大量の注文にでんてこ舞いになりながら、から揚げ弁当を作っている恵の姿だった。それでもいつになく楽しそうにしているのが恵らしく、見かねた常連客たちが接客を買って出ているのが、いかにも恵キッチンらしかった。「恵さん。大繁盛だね」

「あ、大輔くん。ありがとだね。大輔くんたちが宣伝してくれたんでしょ」
「へへ。これでしばらくはやめられないね」
「ん？ やめるって何を？」
「お店」

一週間後、恵キッチンの名物メニュー、から揚げ弁当は10円値上げされ、360円になった。しかし、「10円値上げさせてもらったから…」とさらに量が増えているという。その姿に、常連客たちは口々に、「恵さんらしいや」「うれしそうにそう呟いていた。

登場する人物・団体・名称等は架空のものです。

家庭向け電気料金平均単価の推移
出典：経済産業省資源エネルギー庁「日本のエネルギー2019」



同じ値上げの話でも、こんな風にみんなに愛される話ならいいのですが、みなさんの暮らしに大きな影響を与えている値上げの話があるんです。

それは、電気代の値上げの話。電気代は、その時々々の発電コストの影響を強く受けます。特に、東日本大震災以降は、停止した原子力発電を補うために増やした火力発電の燃料代によって、一般家庭の電気代が押し上げられています。さらに、再生可能エネルギーを普及させるための賦課金も年々上昇しているため、震災以前と比べ、全国平均で約23%も負担が増してしまっています。私たち東京電力は、この課題に対し、風力発電など再生可能エネルギーのさらなる発電効率の向上を目指すとともに、再生可能エネルギー、火力発電、安全を大前提に原子力発電など、どれかひとつのエネルギーに依存せず、バランスよく組み合わせる、エネルギーミックスを行うことで、発電コストの削減を目指しています。みなさまの、かけがえのない、その毎日のために。